



カリマンタン 金の旅

1. カリマンタンの資源探査講習会、旅の寸景。

地球環境で話題の焼畑農業の煙をあちこちに見ながらマハカム河を200トン級貨客船で廻ること2昼夜、長旅を終えて小休止をする参加者達、この後さらにケリアン川のカヌー旅行が続く。

カリマンタンは東部の石油や石炭を除き、資源的には全く未知の地域であった。ところが近年、全くの秘境であるカリマンタン中心部のケリアンで金鉱床が発見され、ESCAP天然鉱物資源局の現地講習会が、Japan Fundにより昨年秋この地で行われた(リーダー=日本からの派遣専門家高橋清氏)。ここでは、川を廻る2昼夜の舟旅と鉱床の一端を紹介してみたい。詳しくは、本誌47-59頁を参照されたい。

(地質調査所長 石原舜三)



2. ケリアン川に入ると、砂金取りのために川の色が一変する。写真は川岸で砂金をとる親子、巨大な木製の桶でパンニングをすると、一回で必ず肉眼で見える量の金が取れる。



3. 丘砂利からの砂金採集、鉦山近くとなると河岸段丘の砂礫層にも砂金が多くなる。



4. 発見露頭のひとつ東ブラムバス鉱体の高品位部、母岩は流紋岩質凝灰岩、ケリアン川沿いに砂金を追跡し、砂金量と火山岩転石の鉦化変質などを手懸かりとして、露頭を発見したという、左の露頭でAu 3g/t.



5. ケリアン鉦山の居住区域、1991年初めの完成時には1200人の労働者が住む予定。